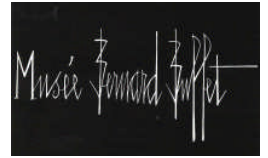


ベルナール・ビュフェの生涯

2012年2月2日(木)～5月8日(火)



ベルナール・ビュフェ美術館



ベルナール・ビュフェの生涯

2012年2月2日(木)～5月8日(火)

ベルナール・ビュフェ美術館

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 515-57

TEL.055-986-1300、055-986-1303/FAX.055-987-5511

<http://www.buffet-museum.jp/>

開館時間：午前10時～午後5時（2・3月）、午前10時～午後6時（4・5月）

（入館は閉館の30分前まで）

休館日：毎週水曜（5月2日は開館）

観覧料：一般500円(400円)、大学生・高校生250円(150円)

※()内は20名以上の団体料金です。

※障害者手帳をお持ちの方は250円、付き添いの方1名様は無料です。

※中学生以下は無料です。

主催：ベルナール・ビュフェ美術館

内容：パリに生まれたベルナール・ビュフェ(1928-1999)は、第二次世界大戦中の占領下で画家を志し、エコール・デ・ボザールに学びました。戦後はアンデパンダン展、サロン・ドートンヌで頭角をあらわし、19歳の時に画家の登竜門だった批評家賞を受賞すると、一躍、フランス美術界における具象絵画の旗手となりました。20歳の若さで画廊と専属契約を結び、ヨーロッパをはじめ世界各地の美術館や画廊で毎年のように個展が開かれました。

その創作活動は油彩だけでなく、版画、挿絵本、舞台美術にまで及び、画業50余年に制作した作品数は8000点以上にのぼります。

ビュフェの名が世に出てから半世紀、数多くの作品が紹介される一方、それとは対照的にビュフェの発言にスポットが当てられることはありませんでした。実際にビュフェは画家にとって言葉は無用のものだと考えていたため、遺された言葉は多くはありません。しかし、虚飾のない言葉からは創作への情熱と苦悩をうかがい知ることができます。

本展では初期から晩年までの作品を厳選し、ビュフェが遺した言葉とともにご紹介いたします。

長い年月、私たちと共に歩いてくれた美術館の建物への感謝の気持ちを込め、空間に共鳴するよう展示いたしました。

美術館改修前最後の展覧会です。

FAX. 055-987-5511

ベルナール・リュフェ美術館広報 高橋 行き

ベルナール・リュフェ美術館
「ベルナール・リュフェの生涯」展 画像請求フォーム



《アトリエの中の自画像》
1949年、油彩



《ピエロ》
1961年、油彩



《死 No.16》
1999年、油彩

上の3点の作品につきまして、画像資料(デジタルデータ)をご用意しております。ご希望される場合は、作品画像下の口をチェック(レ)を入れ、必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

◆貴媒体名

◆掲載号

◆発売日・放映日

年

月

日

◆貴社名

◆ご担当者名

◆TEL

◆FAX

◆E-MAIL

◆ご住所 〒

◆資料お届け期限 年 月 日までにご希望

【掲載誌ご送付のお願い】

本展に関する記事をご掲載いただいた際には、お手数ですが掲載誌を2部、美術館広報にお送りくださいますようお願い申し上げます。